

共産党 8議席から21議席・議案提案権獲得

比例選挙 県内全自治体で前回 衆・参院選から得票数、率とも躍進

山形県の総選挙の結果について

2014年12月16日 日本共産党山形県委員会常任委員会

(1)

12月14日の総選挙で、日本共産党は比例代表選挙で606万票（11・37％）を獲得し、20議席、沖縄1区で勝利を勝ち取り、あわせて改選8議席から21議席とし、衆議院でも議案提案権を持つこととなる躍進を果たしました。

山形県で日本共産党は比例代表東北ブロックで44、833票（8・36％）を獲得し高橋ちづ子候補の議席を確保し、2議席に挑戦する取り組みに発展しました。2議席目の獲得はもう一歩及びませんでした。次の総選挙にむけて大きな可能性を開いたかといえます。

小選挙区で1区石川渉候補が16、577票（10・29％）、2区白根沢すみ子候補が11、086票（5・56％）、3区长谷川つよし候補10、794票（5・79％）を獲得しました。

比例選挙は前回衆議院選挙と比較して得票数で16、614票を増やし（率3・66ポイント増）、昨年参議院選挙と比較しても得票数で10、946票増（率2・3ポイント増）、県内35市町村のすべてで前進しました。

わが党が県内の総選挙比例で4万票、8％の得票数を超えたことは1996年の選挙以来18年ぶりのことです。また小選挙区では1区で初めて10％を超えました。全体として総選挙の結果は、全国でも、ここ山形県でも画期的な躍進といえるものです。

ご支持をいただいた有権者の皆さん、ご奮闘いただいた支持者、後援会員、党員みなさんに、心からお礼申し上げます。

(2)

今回の選挙で日本共産党は「安倍政権の暴走ス



仙台の事務所でも5回目の当選を喜ぶ高橋ちづ子さん

トップ、日本の政治の5つの転換を訴え、政助成金の廃止を強く訴え、えました。どの問題とも対決。対案を示した。かいたし

た。このことが「安倍政権は怖い」「今度は共産党だ」という多くの県民の共感をいただき、党への信頼へつながりました。またこれまで取り組んできた消費税増税中止、TPP反対、集団的自衛権の行使容認撤回、秘密保護法撤回、原発再稼働反対などの「一点共闘」の発展が今回の結果に生きた力を発揮しました。

こうした成果を生かし、前進した衆議院の議員団の力を十分に発揮しがんばる決意です。

(3)

選挙戦で「自共対決」を訴え続けましたが、選挙の結果はいよいよこの重要性を示しています。選挙結果から山形県では「自民党完勝」などといわれていますが、政党の力関係を示す比例代表選挙では自民党は37・49％であり、昨年の参議院選挙から得票数で25、884票、得票率でも3・1ポイント減らしています。自民党が県内で議席を独占したのは何よりも大政党有利に民意をゆがめる小選挙区制によるものです。

安倍自公政権が、今回の結果を持って国民から白紙委任を与えられたと考えるならば大きな間違いです。日本共産党の躍進に示された民意を真剣に受け止めるべきです。

山形県において、日本共産党は「2大政党制づくり」「第3極」論などにより、21世紀に入り、前進を阻まれてきましたが、こうした攻撃を乗り越える努力が今回の躍進に実りました。到達は全国、東北各県の水準から見てもちろんまだ不十分でありませんが、開始された躍進をさらに発展させる決意です。県常任委員会は、この間の全県党のみなさんの奮闘に心から敬意を表するとともに、新たな前進を誓うものです。

(4)

安倍政権が進めようとする「暴走政治」はどの問題でも国民との間で大きな矛盾に直面します。日本共産党は新しい国会で新たな力を発揮してあらゆる分野で「一点共闘」を展開させ国会内外の力で安倍政権の暴走を包囲し、日本の政治を変えるために全力をあげます。またそのためにも強く大きな党づくりは欠かせません。

総選挙の画期的な躍進を「強く大きな党」づくりを生かし、さらなる大飛躍をめざしてがんばります。

山形県党ニュース

12月16日 発行 日本共産党山形県委員会
Tel023-644-1212 fax023-644-1213